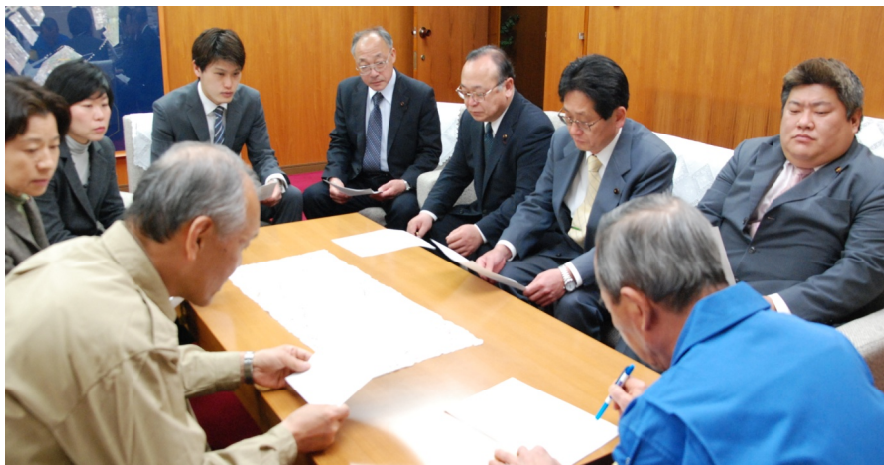


発行 江東区民報編集委員会
責任者 猪又 武夫
住所 江東区東陽2-3-5-203
電話 3648-5155 FAX 3648-5137
ホームページ
http://www.koto-minpo.jp/



区長に災害への緊急対応を申し入れる区議団=16日

大震災被災者への救援を訴えます

私たちの生存に欠かすことのできない食料生産地である東北・関東の太平洋岸の各県は、壊滅的打撃をこうむっております。いまなお多くの人々が大津波と福島原発爆発による放射能汚染など未曾有の災害に多くの犠牲・被害を出し、寒空の下で避難生活を余儀なくされています。被災者への救援と復興へのみなさんの暖かいご支援を心からお願いします。日本共産党江東地区委員会 震災対策本部

区長への緊急申し入れ

東北地方太平洋沖地震による震災は、未曾有の事態となっております。被災者の救援に政府はもとより全国的な支援が必要となっております。江東区は、区民及び帰宅困難者の一時避難、また被災地への一定の支援など対応を行ってきまし

12項目の要旨

- 被災地への支援金や物資と人的支援
福島原発による区内放射線レベルの測定と情報提供
東京電力の「計画停電」についての情報提供
液状化現象による被害の復旧
高齢者世帯、福祉施設、保育園、中小企業などの被害の復旧支援
庁内に地震に関する総合窓口を設置、広報対策

江東の液状化深刻

区内の新木場、豊洲・辰巳などで液状化による土砂の噴出、陥没・亀裂など二面に広がっています。東京ガス工場跡地は、青果卸、水産仲卸売り場などを予定している5・6街区は土砂



豊洲ビバホーム前で



液状化した豊洲・東京ガス跡地



区議会第一回定例会は、10年度最終補正予算、11年度予算審議、すべての常任・特別委員会での審議が終わりました。

補正予算審議では、基金の一部積み戻しと当初保留分の計上とで総額およそ110億円の積み増しが行われ、積み立て基金総額は700億円となりました。

区議団予算修正案を提出

共産党区議団は本会議代表質問はじめ、すべての委員会審議を通じ、不況と社会保障切り下げで深刻な影響を受けている区民の暮らしを守るため、提出しました。

修正の主な内容

第一に、福祉や教育、中小企業支援の充実、防衛費の削減など、要不急の事業費を削減すること。第二に、道路占用料の適正化や基金の活用で財源を確保することです。修正額は原案を17億5

歳出修正の主な内容

- 民生費
難病患者への福祉タクシー券支給、介護保険料・利用料の負担軽減、重度介護手当てや入院助成金の支給、認可保育園の増設、中国残留邦人の生活支援事業の拡充、生活保護のケースワーカーの増員
衛生費
前立腺がん検診の拡充
産業経済費

土木費

退職職員分を新規採用で補充するとともに、住宅リフォーム助成やマンション耐震改修補助の引き上げなど
教育費
就学援助の拡充、区立幼稚園保育室へのクーラー設置、学校用業務の民間委託中止など



南砂小学校に避難する人々



辰巳10街区階段下の陥没

11日午後、団地のおしゃべり会も終わりに近づき、食料自給率が話題になった時、突如大揺れとともに「国が壊れる」という叫びが起こりました。千年に一度ともいわれるM9.0の大震災の壊滅的被害は集落を呑みこむ大津波に加えて、福島原発の建屋爆発などの放射能汚染で未曾有のものとなっております。スリーマイル、チェルノブイリそして99年東海村の警告にもかかわらず、効率と環境にやさしいとCMまで流した「安全神話」は完全に否定されました。原発行政の根本的な見直しは急務ではないでしょうか。失われたかけがえのない人命、住家・畑など想定外の天災というだけではすまされません。防災対策をないがしろにしてきた政治の責任が問われます。江東区内でも死者2名、辰巳団地での液状化による上下水管の破断などの被害。小・中学校の耐震化をすすめて本当にかかった▼いつものようにこの実績を横取りする宣伝もあります。共産党区議団と党支部は区内の被害状況を調査するとともに、東日本震災救援金の活動にあたっています。さらに、食の安全が問われる築地市場移転予定地の液状化、農林水産業などに壊滅的打撃を与えている今回の大災害を、人命・財産を守る政治の転換が求められます。



# 平和・くらし風土記 57

## 都職労江東支部の誕生(2)

都職労江東支部(現江東区職員労働組合)は都職労の支部組織として1947年9月1日に、深川分会・城東分会の二分会制で結成・発足しました。

初代支部長は相沢繁志氏、書記長は堀井金次郎氏でした。また、甲賀多助氏(城東)と堀井氏は1945年から都従結成に向け東奔西走し、とりわけ甲賀氏は都職労結成の1946年から1964年までの間、都職労中央執行委員として活躍しました。

江東区は、1945年3月の東京大空襲により一瞬のうちに焦土と化し、6万人の死傷者という未曾有の惨禍を被りました。

長い間の侵略戦争の悲惨な犠牲を代償に、1947年5月には日本国憲法、地方自治法も施行され、また教育基本法や労働基準法等の公布により労働組合運動も、自由と民主主義を手にし、弾圧によって途絶えていた息を吹き返し発展します。戦前は40万人以上いた人口も大空襲を受けて、1947年には96,870人に減っていましたが、3月15日に旧深川区と城東地区が合併して江東区が誕生しました。そして9月に、江東支部も戦災の傷跡深く残る街に産声をあげました。

支部に結集した組合員は役員を先頭に、生きていくための飢餓突破資金、生活補給金の闘いに立ちあがり、全組合員が行動に連日参加し、支部活動は急速に高揚しました。

その後、1952年から機関運営が不正常になり、組合機能を喪失しましたが、吉田栄作氏らの努力によって1962年4月に再建大会を勝ち取りました。以降、都職労運動とともに1966年の10.21スト、1967年美濃部革新都政実現とその後の革新都政確立運動、1973年庁舎移転合理化反対闘争と電算機の民主的利用闘争、自治研集会の開催と民主的自治体づくりの運動、「地方行革」反対闘争、地域春闘の成功、全労連・自治労連の組織選択などの課題に取り組み地域の労働運動・民主運動で大きな役割を果たしています。

生徒たちは東京大空襲・戦災資料センターを見学したり、大空襲の体験や母校が焼夷弾で焼失したことを聞いたたりして練習を重ね、「つどい」では「上演後、反響が寄せられメッセージが届いて嬉しかった」、「絶対忘れてはいけない、伝えなければいけないテーマであり沢山の人に伝えたい」との発言がありました。

### いのち・くらしを守る 防災福祉都市の実現を!

**東京都知事選挙**  
投票 4月10日(日)  
**区長・区議会議員選挙**  
告示 4月17日(日)  
投票 4月24日(日)

### 告知板

## 築地市場移転問題

## シンポジウム

# 東京ガス跡地では食の安全守れない



3月6日、「汚染された東京ガス豊洲工場跡地への築地市場移転問題を考えるシンポジウム」(主催・日本共産党江東地区委員会・同区議団)が江東区民センターで開かれ、会場溢れる150人を超える人たちが参加しました。

### 日本環境学会幹事

坂巻 幸雄氏

「東京ガス工場跡地は、ベンゼン、シアン、ヒ素、油膜、油臭、ベンゼン(a)、ピレン等の多重複合汚染地域で、高濃度・散在性の汚染スポットが多数ある土地。都は「不透水層(有楽町層最上部の粘性土層)があり、汚染は下層に拡大していかない」と逃げているが、実際に有楽町層の下に汚染が広がっている事例が他でおきている。科学的実験のない都の安全宣言では、食の安全は守れない」と資料も示して明らかにしました。

### 築地青果市場仲卸業者

佐藤 龍雄氏

汚染を知った水産仲卸の有志が「猛毒の地に移転は許さない」との決意のもと、「市場を考える会」を設立して学習会やデモなどを行い、

アンケート調査では、水産仲卸の73%、青果仲卸の90%が移転反対、会には多くの市民、団体が結集して頑張っている」と発言。

### 東京ガス豊洲工場労働者

伊野 正之氏

「当時はガスを造るのに、石炭・原油・LPG・ナフサを併用しており、汚染は石炭からの生成物である」など汚染の歴史を証言。

### 江東区議会議員

齊藤 信行氏

江東区議会での築地移転に関する論戦の内容や、この問題を取り上げてきた党区議団の活動を紹介しました。

会場からの発言は、都議会の状況、交通問題、消費者の視点や、ジャーナリストの立場から、食の安全など多彩な発言があり、また「厚いコンクリートで覆え

ば汚染はふせげるのでは」など数多くの質問に、「地震で液化化状態になれば、汚染が噴き出す」など、丁寧な回答が行われました。

## 東京大空襲を語り継ぐつどい

「町も家も家族みんなを奪ったあの惨禍を忘れてならぬ」  
—講演・海老名孝子さん、中学生の合唱に感動—



このシンポジウムでは、「築地移転は白紙撤回し現在地再整備を」の大きな合意が形成されました。

3月5日夜、カメラアホールで4百人を超す参加で開かれた「つどい」は、平和の祈りを込めた黒坂黒太郎さんのコカリナ演奏と矢口周美さんの歌で始まりました。

開会にあたり、児玉都教組執行委員長は「教育勅語賛美の石原都知事ではなく、戦争の真実をしつかり伝えていくことを大切にすることを期してほしい」と挨拶しました。

はじめて参加した都立両国高付属中学の生徒が文化祭で東京大空襲をテーマに英語劇を上演し、マスコミでも放映されましたが、その劇中歌の「Sing Like a Bird」(風のように歌う)を合唱しました。

生徒たちは東京大空襲・戦災資料センターを見学したり、大空襲の体験や母校が焼夷弾で焼失したことを聞いたたりして練習を重ね、「つどい」では「上演後、反響が寄せられメッセージが届いて嬉しかった」、「絶対忘れてはいけない、伝えなければいけないテーマであり沢山の人に伝えたい」との発言がありました。

講演で海老名孝子さんは祖母、父母、弟とのエピソードと大空襲時の悲惨な状況を語り、「優しかった多くの肉親、活気と温かみのある町を支えた10万人もの人たちが一瞬のうちに死んでしまった。もっともつと大空襲のことを知ってもらいために、命ある限り伝えていきたい」と語りました。

また、戦災資料センターのこの一年間のとりくみも報告され、築山実さんの証言映像「片隅の祈り」180霊地蔵を守る」が上映されました。

最後に、早乙女館長は「開館9周年を迎え、この間9万7千人が来館した。これからは追体験の時代になる。それには色々な事実即した資料が必要だ。10周年を迎え体制固めが必要な時期にさしかかり、一人ひとりが主体的協力者になってほしい」と訴え「その火を消すな。毎日毎日薪をくべる」の言葉で結びました。